

小容量単独発電設備基本計画資料

この資料は初期の計画段階に必要な実際に使用できる電力と総工費単価の状況を太陽光発電、風力発電、水力発電について示したものです。太陽光発電についてはその設備容量を、風力発電については風車の直径を、水力発電については6m水高における水量を並記しています。総工費に対する相当電力単価は設備寿命を20年間として単純計算された値を参考値として表左側に示しています。これらの詳細計算は1999年現在市販されているもののシステム構成、設置工事等を根拠としています。連系系統関連、開発要素、アートの要素、および周辺整備関連は含まれておりません。

例：100Wの電球をつけたい(実用出力100W)場合

① 太陽光発電 総工費：16x100=1600円	⑥ 太陽光発電 設備容量：880W
② 風力発電(風速10m/s)総工費：3.0x100= 300円	⑦ 風車直径(風速10m/s)：1.1m
③ 風力発電(風速6m/s) 総工費：6.3x100= 630円	⑧ 風車直径(風速6m/s)：2.3m
④ 風力発電(風速5m/s) 総工費：12x100=1200円	⑨ 風車直径(風速5m/s)：3.4m
⑤ 水力発電(水高6m) 総工費：4.0x100= 400円	⑩ 要求水量(水高6m)：170L/min

1999.09.14

